

# 交通 評論



「日本で最も美しい村」連合というNPOによる地図が手元にある。北海道美瑛町から大分県湯布院町まで、44の美しい村が示されている。写真を眺めながら行ってみたいと思っ

た。11月12日の晴れ渡った穏やかな秋の日に、その一つの村の神社の境内でドイツ・カイザースラウテルン市オペラ座の首席チェリスト・野瀬正彦氏のミニコンサートが行われた。澄んだ空気に染み通るようなアペリアと境内に映える紅葉、最高の午後の時間であった。

しかし、この村「福島県・飯館村」は「計画的避難区域」の中にあり、もはや昔の通りではない。秋の収穫を終えるこの時季、子どもたちが走り回り、賑やかな屋台が出ているはずの「虎捕り山津見神社」とらとりやまつみじんじや」の大祭は、例年近隣から3万人を集めて3日間賑わうこのことであったが、原発事故の影響で、日曜日に1日だけの開催となった。参加者は1000人程度、屋台も祭止され、高線量放射線被曝を恐れて子ども姿はほとんど見られなかった。

飯館村は福島第一原子力発電所の北西三十数キロ内陸にあるため、津波の影響はなく、震災当初は数千人の被災者を受け入れている。

## 日本で最も美しい村

土器屋 由紀子

朝日新聞の記事によると、長泥地区の人たちは、逃げてきた南相馬の人たちのために懸命に炊き出しをしてきた(実は後になって高い線量地域であったことが分かったのであるが)。

ところが、3月末に土壌から高濃度セシウムが検出され、IAEA(国際原子力機関)により「避難基準を越す」と指摘された。日本の原子力安全・保安院の「避難の必要はない」という発言などもあり二転三転

詳細な汚染マップを作っている。お祭りの行われた山津見神社の境内の落ち葉はお祭りの前に片付けられ除染が行われたため、当日の線量は1時間当たり1マイクロシーベルト程度に抑えられている。

だが、村全体を考えると稲作があり、牧畜があり、地場産業があり、商店があり、役場や学校や図書館があり、結婚式があり、子どもが生まれ年寄りが亡くなるといった日常がある。山林の除染は今後、長時間にわたり天文学的な経費と労力を必要とすると思われる。

「ままでい」とは古語「真手」が語源で「手間ひま惜しまず丁寧」に心をこめて」と言う意味で、村のキーワードになっている。

したが、4月末に全村「計画的避難区域」に指定された。5月には約6000人の村民避難が始まり、現在村の見守り隊員や専門家のグループが村の

「美しい村」はそこに生活があり人が住めてこそのものである。飯館村が「最も美しい村」連合から選ばれた理由は、「田植え踊り」や「三匹獅子舞」な

「美しい村」が一つ消えそうになっている。放っておいてよいのだろうか。(江戸川大学名誉教授・元気象大学教授)